

⑫ 公開特許公報(A) 平4-149103

⑬ Int. Cl.³

A 01 N 31/04
35/02
37/10

識別記号

庁内整理番号

8930-4H
8930-4H
8930-4H

⑭ 公開 平成4年(1992)5月22日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 屋内塵性ダニ類防除剤

⑯ 特 願 平2-276028

⑰ 出 願 平2(1990)10月15日

⑱ 発 明 者	松 永	信 一	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑱ 発 明 者	齋 藤	由 美	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑱ 発 明 者	吉 田	継 親	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑱ 発 明 者	漆 崎	文 男	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑱ 発 明 者	島 村	治 夫	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑲ 出 願 人	大正製薬株式会社			東京都豊島区高田3丁目24番1号
⑳ 代 理 人	弁理士 北川 富造			

明 細 書

1 発明の名称

屋内塵性ダニ類防除剤

2 特許請求の範囲

(1) ケイ皮酸ニチル、ケイ皮酸メチル、ケイ皮アルコール、酢酸シンナミル、 α - β -ヘキシルシンナミルアルデヒドから選択される少なくとも1種を有効成分として含有することを特徴とする屋内塵性ダニ類の防除剤

3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は屋内塵性ダニ類の防除剤に関する。

(従来の技術)

近年、住宅環境、生活様式の変化に伴い、屋内塵性ダニ類(クワガタツメダニやフトツメダニ等のツメダニ類及びコナヒョウヒダニ、ヤケヒョウヒダニ等のヒョウヒダニ類をさす。以下同じ。)

が多量発生するようになってきており、そのためにツメダニ類による咬傷症、ヒョウヒダニ類によるアレルギー性疾患が問題になってきている。

従来これらのダニを防除するために有機リン系化合物、カーバメート系化合物、ピレスロイド系化合物がエアゾール剤、シート剤、粉剤等の形で用いられていた。

一方、ケイ皮酸ニチル、ケイ皮酸メチル、ケイ皮アルコール、酢酸シンナミル及び α - β -ヘキシルシンナミルアルデヒドは、化粧品や食品に使用されていた。

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、従来から用いられているダニ防除剤は人畜毒性が高かった。

(課題を解決するための手段)

そこで本発明者らは人畜毒性が低く、しかも各種のダニ類に対し優れた防除効果を有するダニ防除剤について鋭意研究を重ねた結果、ケイ皮酸メチル、ケイ皮酸ニチル、ケイ皮アルコール、酢酸シンナミル、 α - β -ヘキシルシンナミルアルデヒド

BEST AVAILABLE COPY

実施例5と同様にして油剤を得た。

実施例6

ケイ皮酸ニチル1gをケロシンで溶解して全体を150mlとし、これをニアゾール三に充填した後バルブを開閉し、液化石油ガス150mlをバルブ部分より加圧充填してニアゾール剤を得た。

実施例7

実施例6において、ケイ皮酸ニチルの代わりにケイ皮酸メチルを用いた他は実施例6と同様にしてニアゾール剤を得た。

実施例8

実施例6において、ケイ皮酸ニチルの代わりにケイ皮アルコールを用いた他は実施例6と同様にしてニアゾール剤を得た。

実施例9

実施例6において、ケイ皮酸ニチルの代わりにケイ皮アルコールを用いた他は実施例11と同様にしてシート剤を得た。

実施例10

実施例11において、ケイ皮酸ニチルの代わりに酢酸シンナミルを用いた他は実施例11と同様にしてシート剤を得た。

実施例11

実施例11において、ケイ皮酸ニチルの代わりに α - α -ヘキシルシンナミルアルデヒドを用いた他は実施例11と同様にしてシート剤を得た。

実施例12

フラッシュミキサー機にタルク10.25重量部、潤水性酸5.0重量部、フェノトリン0.5重量部及びケイ皮酸ニチル5.0重量部を仕込みプレミックスを得た。
このプレミックスとタルク15.25重量部をV字型混合機に仕込み、10分均一に混合して粉剤を得た。

酢酸シンナミルを用いた他は実施例6と同様にしてニアゾール剤を得た。

実施例13

実施例6において、ケイ皮酸ニチルの代わりに α - α -ヘキシルシンナミルアルデヒドを用いた他は実施例6と同様にしてニアゾール剤を得た。

実施例14

ケイ皮酸ニチル10gをエタノールで溶解し、フラット紙に平方メートル当り100g塗布し乾燥させてシート剤を得た。

実施例15

実施例14において、ケイ皮酸ニチルの代わりにケイ皮酸メチルを用いた他は実施例14と同様にしてシート剤を得た。

実施例16

実施例14において、ケイ皮酸ニチルの代わりにケイ皮アルコールを用いた他は実施例14と同様にして粉剤を得た。

実施例17

実施例16において、ケイ皮酸ニチルの代わりにケイ皮アルコールを用いた他は実施例16と同様にして粉剤を得た。

実施例18

実施例16において、ケイ皮酸ニチルの代わりに酢酸シンナミルを用いた他は実施例16と同様にして粉剤を得た。

実施例19

実施例16において、ケイ皮酸ニチルの代わりに α - α -ヘキシルシンナミルアルデヒドを用いた他は実施例16と同様にして粉剤を得た。

(試験例)

(a・b)の大きさのろ紙(直径ろ紙8050)に所定の濃度(0.2g/m²または0.5g/m²)となるように本発明の屋内用ダニ類の防除剤の有効成分のアセトン溶液0.5mlを含浸させる。ろ紙を除去後、この含浸紙上に約36頭のケナガコナダを^ニ生をおき、含浸紙を半分に折り、その3辺をクリップではさむ。これを25℃、10%RHの条件下に置き24時間後、ダニの生死を観察した。

第1表に結果を示した。

本発明の屋内用ダニ類の防除剤の有効成分は、第1表で明るように優れた殺ダニ効果を示した。

特許出願人 大正製薬株式会社

代理人 井理士 北川 富造

第 1 表

供試媒体	致死率(%)	
	0.2g/m ²	0.5g/m ²
ケノ皮酸エチル	100	100
ケノ皮酸メチル	100	100
ケノ皮アルコール	100	100
酢酸シンナミル	100	100
α-β-ヘキシルシンナミルアルデヒド	100	100

BEST AVAILABLE COPY